

平成 28 年度事業報告について

1 古戦場桜まつり事業

主催：長久手古戦場桜まつり実行委員会

概要：小牧・長久手の戦いに関する史跡など、郷土の歴史、伝統文化に触れる機会とし、市民による実行委員会が主催し、平成 28 年 4 月 3 日に長久手古戦場桜まつりを開催した。

各団体によるステージ発表、ブース出店、茶席、火縄銃の発砲、弓道大会を実施した。来場者は約 8,000 人。

2 古文書等燻蒸

概要：平成 28 年 10 月 23 日、24 日に郷土資料室で保管している古文書の虫食いを事前に防ぐため、燻蒸を行った。

3 展示事業

(1) 長久手市郷土資料室特別展（平成 28 年 11 月 18 日～12 月 18 日開催）

「小牧・長久手の戦い～秀吉と家康が戦い、歴史が動いた。ここ長久手で。～」

概要：市内外からの来館者に小牧・長久手の戦いに関する理解を深めていただくと同時に、市が進めている古戦場公園再整備事業を PR するため、「小牧・長久手の戦い」をテーマとした特別展を開催した。来場者は 2,038 人。

（アンケート結果 抜粋）

- ・小牧・長久手の戦いを詳細に知ることができた。歴史上重要な戦いだと分かった。
- ・ガイドの説明がとてもわかりやすく面白かった。
- ・歴史の詳細がわからない人や、小中学生にも分かりやすいように工夫するとよい。
- ・展示物が少ないので少し物足りない。
- ・小牧・長久手の戦いに関わった武将の紹介をもっと詳しく知りたい。
- ・小牧・長久手の戦い以外のテーマも取り扱ってほしい。等

(2) 特別展関連講座・愛知県立芸術大学連携講座（平成 28 年 11 月 26 日開催）

「小牧・長久手の戦い合戦図屏風と見る、戦における空間、地形、時間～タブレットコンテンツ長久手の戦いビューワーを利用して。～」

概要：地形データを活用した、タブレットコンテンツを利用して、平面地図からはわからない、戦いの様子を空間体験的に検証する講座を開講した。受講者は 20 人。

（アンケートより抜粋）

- ・タブレット（端末の）映像による隊の動きが分かり理解しやすかった。
- ・（戦いを）立体的にみることができ新鮮であった。
- ・実際の両軍の動きが地形、屏風図から理解できた。

4 古民家調査 別紙1

概要：古民家の歴史的価値を保存継承するにあたり、移築、復元のための現況調査を実施した（平成28年12月～平成29年3月）。

5 古戦場公園再整備事業

- (1) 史跡長久手古戦場保存活用計画策定業務 史跡長久手古戦場保存活用計画策定測量業務（平成28年度から平成29年度まで）

概要：国指定史跡（長久手古戦場）の保存・活用について、史跡地の構成要素を分類し、その保存と活用の方針を定める保存活用計画を策定する。また計画策定に関して史跡地の境界など必要な測量調査業務を実施する。

- (2) 古戦場公園基本計画策定業務（平成27年度から平成28年度まで）

概要：長久手古戦場野外活動施設の見直しを含め、古戦場公園一帯を有効活用するために、市民の意見を集約し、基本計画を策定した。

6 補助事業

- (1) 長湫警固祭り保存会（長湫の警固祭り 平成28年10月9日開催）
(2) 前熊古典芸能保存会（前熊天王祭り 平成28年7月10日開催ほか）
(3) 左義長2地区
- ・岩作壁ノ本 平成29年1月9日開催（岩二有志の会）
 - ・岩作長鶴 平成29年1月14日開催（ボーイスカウト長久手第1団）

7 工事に伴う埋蔵文化財の取扱いに係る立会い 別紙2

妙善寺跡（岩作長池）

本尊は、千手観音で江戸時代の初期に廃寺となった。「岩作寺山」の地名は、この寺の所有地であったためである。

工事内容：店舗新築工事

取扱い：愛知県教育委員会と調整し、遺跡に近接しているため、工事の際に市教育委員会が立ち会うことが適切とした。

立会い結果：最大掘削深度47cmの時点で遺物等の確認はできなかった。盛土し、砂利を敷いたと思われる地層内での掘削工事であり、遺構・遺物への影響はないと考えられる。

古民家調査について

1 概要

古民家（加藤建夫邸）は、長久手市内に現存する古い形式の民家の一つであり、江戸時代後期（1700年代末頃）に建立されたと推定される貴重な建物である。「鳥居建形式」と呼ばれる当地方を代表とする形式で建立されている。

2 復元調査

本建物は江戸時代後期の建立からこれまでに幾度かの増築がなされており、建物の間取り・形状・仕様については、原則として建立当初の状態に復元する。

解体前および解体時、解体後の綿密な調査が必要となり、その調査結果により復元時の最終的な仕様を決定する。

3 構造・形式

茅葺屋根（瓦葺屋根の庇は無かったと考えられる）、鳥居建構造を示す鳥居柱と梁と、鳥居柱筋には屋根を支える柱を残す古い形式の構造となっている。

4 調査所見

本建物は石端建（いしばだて）、伝統工法による木造平屋建、入母屋造（いりもやづくり）、屋根茅葺、庇瓦葺、鳥居建形式の民家である。主な耐震要素は土壁。

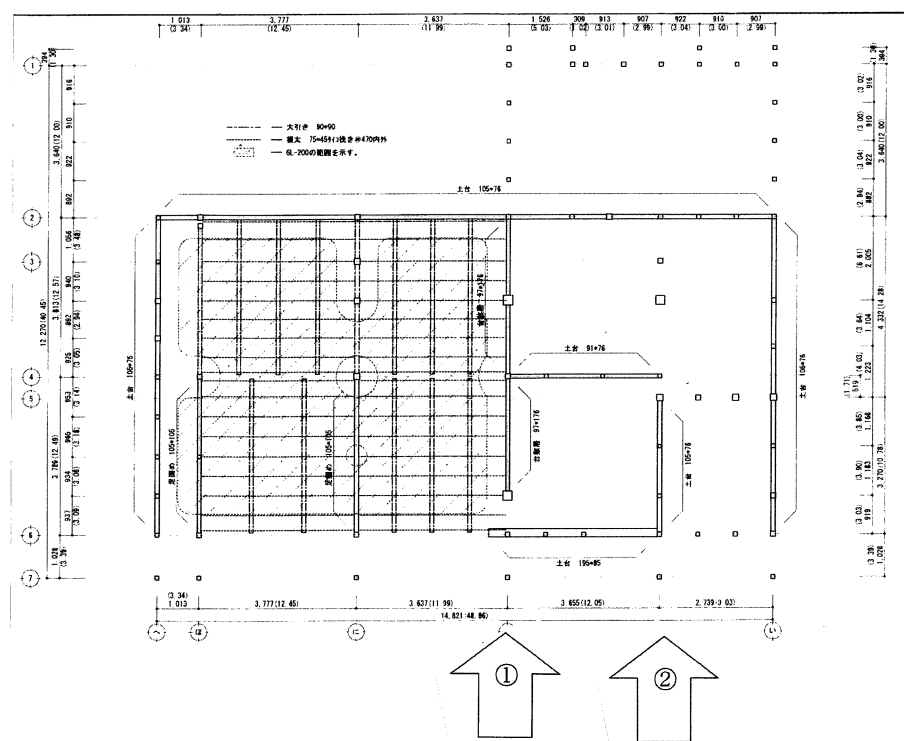
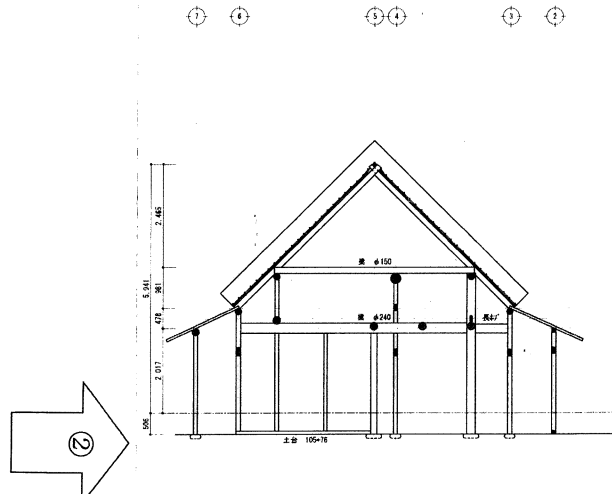
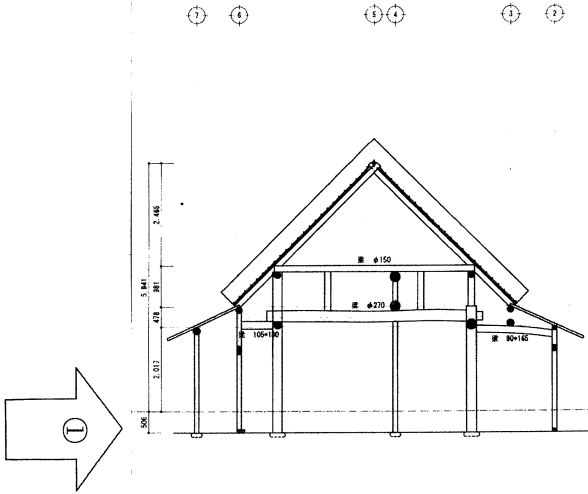
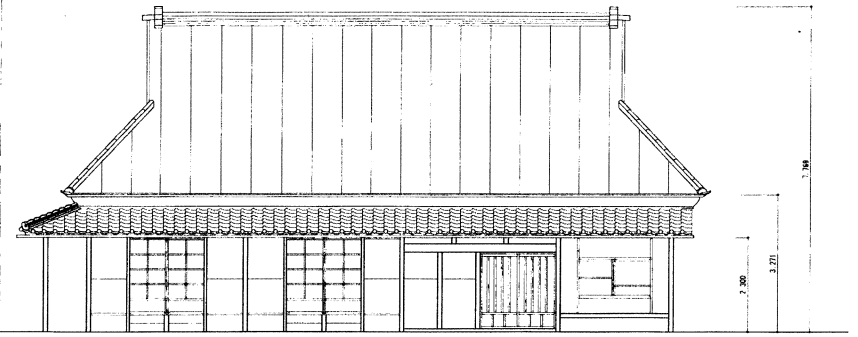
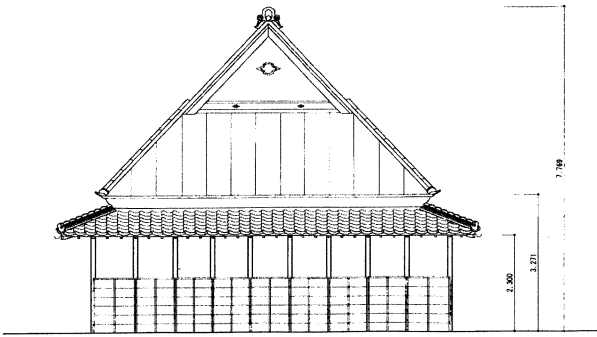
軸組部分である柱と横架材との仕口（しぐち）の長柄（ながぼぞ）は、腐朽、損傷が著しいため、雇柄（やといぼぞ）にて復元する。

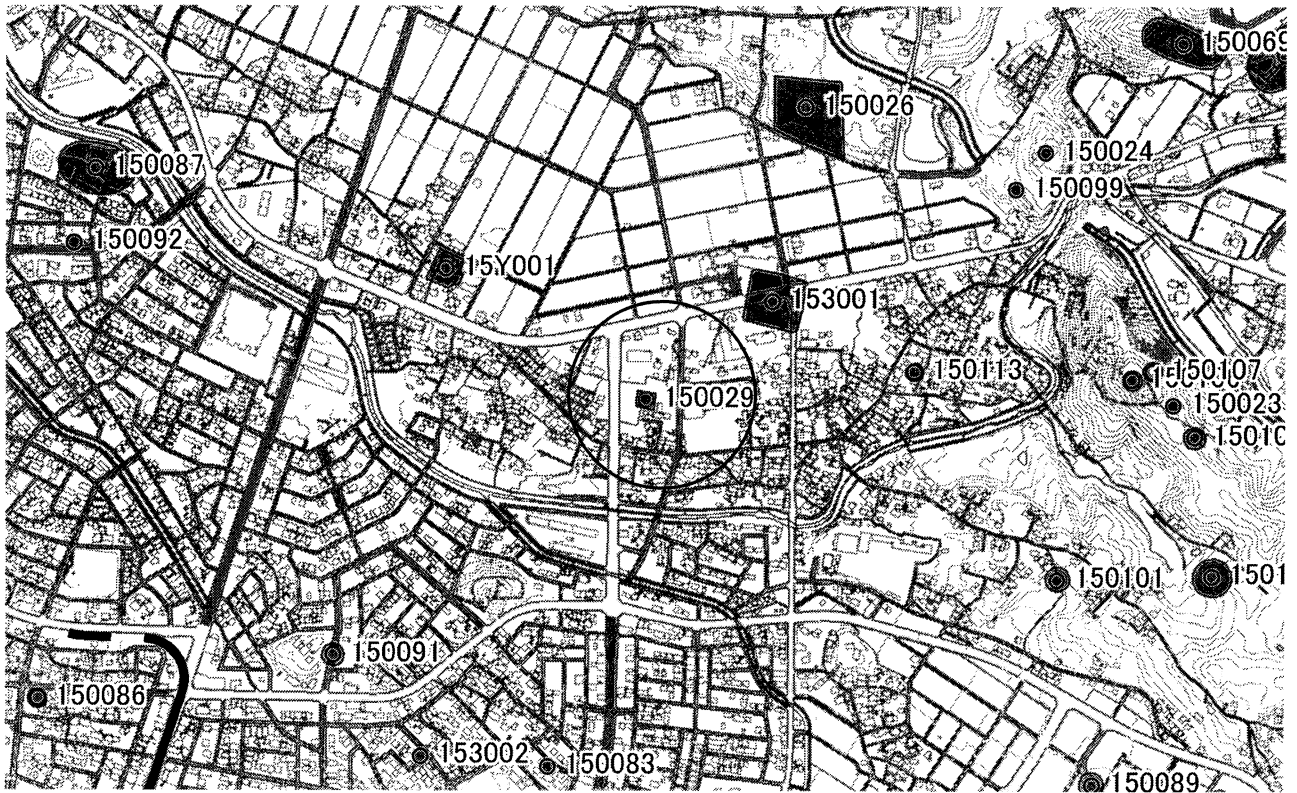
復元に当たっては、耐震診断を実施し、倒壊しないように必要な耐震補強を施す。

また、解体の際、あらためて建物の軸組部材の仕口、継手（つぎて）に緩みがないことを調査する。

5 整備の方針

平成29年3月、古戦場公園再整備基本計画が策定され、史跡長久手古戦場の歴史的価値を活かした公園の整備をする。古民家の復元については、長久手の伝統的文化の発信、交流の場とすることを方針としている。





遺跡番号	150029
包蔵地名	
ふりがな1	みょうぜんじ
市町村名	愛知郡 長久手町
所在地	岩作字長池
ふりがな2	やぎこあざながいけ
現況	宅地
面積	
遺跡の種類	社寺跡
時代	近世
遺構	
遺物	
管理者	
備考_1	
記録保管所	
遺物保管所	
包蔵地概要	1662廃庵
更新年月日	
備考_2	

妙善寺

本寺既往字間背口今長池三十地辺にありて、其附近に寺西、寺前、寺山、堂後、坊主街道等の字名も有り。内寺山は境内の前面にして本寺の所有なりし由里説伝ふ。安昌寺過去帳中遺族者の住所に拠れば、今中島と称する所も寺山と云ひし也。安昌寺伝記に本尊は千手観音にて、此寺寛文二年三月廢寺と見ゆ。里説には名古屋寺町へ遷せり。今の妙善寺之れなりと伝ふ。

妙善寺跡 店舗新築工事 工事立ち合い写真 平成 28 年 5 月 16 日

